

でんぎの礎

—振り返れば未来が見える—

でいじたるふあくしみり
デジタルファクシミリ
りふあくするっぴゃくえす
リファクス 600S

モノ

こと

RIFAX 600S, Digital Facsimile Machine



デジタルファクシミリ リファクス 600S は、株式会社リコーが開発し、1974 年（昭和 49 年）に発売されました。当時の業務用ファクシミリは、音響結合で電話回線に接続するアナログファクシミリが全盛であり、A4 原稿の伝送に 6 分の時間を必要としました。これに対しリファクス 600S は、原稿の書画情報の読み取り、データ圧縮処理、伝送、記録システム制御のすべてのプロセスをデジタル処理するファクシミリで、A4 サイズ（600 文字）の標準原稿 1 枚を 1 分で伝送でき、世界初の実用的国際間データ送受信を実現した画期的なものでした。

ファクシミリの構成は、「原稿から画像信号への変換」、「画像信号の圧縮・伝送」、「伝送された画像信号の復元」、「復元された画像信号から画像の作成」の大きく 4 工程と、システム制御がありますが、リファクス 600S では、原稿の読み取りから始まるすべてをデジタル処理にして、高速化を実現しました。

リファクス 600S で適用された符号化などのデジタル技術は、国際標準化につながり、また、複写技術と融合して、現在のコピー、プリンタ、ファクス、スキャナー一体の複合機へと進化し、OA 機器の発展とオフィス業務の革新的効率化に貢献しました。

☆顕彰先 : 株式会社リコー

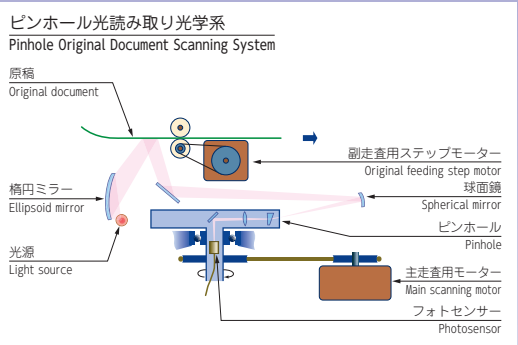
☆展示場所 : 〒243-0460 神奈川県海老名市下今泉 810
(リコー テクノロジーセンター)

☆ホームページ : <http://jp.ricoh.com/>

☆アクセス (最寄駅) : 小田急線、相模鉄道線、JR 相模線 海老名駅より徒歩 10 分



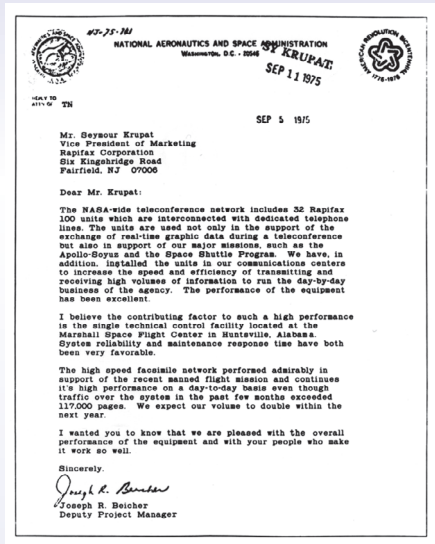
②



③



④



⑤

(写真提供：株式会社リコー)

- ① リファクス 600S
- ② 当時の生産ライン (リコー厚木事業所)
- ③ ピンホール光読み取り光学系
- ④ リファクス 600S 発表会 (経団連会館) での佐藤前首相 (左) と舘林社長 (右) (1973 年 4 月当時)
- ⑤ NASA (アメリカ航空宇宙局) から届いた感謝状 (1975 年 9 月)